

## 支え合いの拠点

# 「しきしまの家」の内覧会を開催しました♪



● 温かい雰囲気プロジェクトが進行していることがとてもよく伝わりました。お披露目会的な機会を設けてください。

● 来年令和5年4月に、お披露目会を行う予定です。楽しみに待っていてください！

● 今日にはぎわってよかったです。もっと食べられるものが増えるといいです。

● 令和6年4月には、カフェ「ふらっとyui」をオープン予定です。その時にはランチ(うどん、サンドイッチ、おにぎり等のメニュー)や美味しいコーヒー、焼き菓子など楽しめるようになります。

### 町内会への説明会、全て終了

11月27日(日)の東萩平町で、全ての町内会の説明会が終了しました。ご協力ありがとうございました。

説明会が進むにしたがって雰囲気少しずつ変化していききました。支え合いシステムのお届け用紙の記入では「こんなことを書いても良いのか」等、具体的な質問を出してくださる方も多くあり、大変ありがたいです。電力の切替えも「自分たちが切替えることで地域のためになることがよく分かりました。早速申込んだ」という声もいただいています。



● カフェやレストランだとお金を払わないと入れない。ただ、ふらっと入ったり、友人と話すのに場所がほしいのでタダで入れると嬉しい。  
● もちろんただ「ふらっと」世間話などをしに来てくださいる方、大歓迎です♡

### ご意見いただきました

10月22日(日)「しきしまの家」の内覧会を行いました。当日は100人余りが参加され、久しぶりに自治区ににぎやかさと笑い声が満ちました。各町内会や各部会に一定の人数を集めてほしいとお願ひもしましたが、お孫さんを連れて来てくださった方や、ご夫婦で仲良く来てくださった方などもあり、久しぶりに近所の仲間と会って話ができよかったですといった声もいただきました。皆さんの「しきしまの家」に対する期待感がひしひしと伝わる1日となり、ありがとうございました。

### ① 支え合い社会創造プロジェクト



# 「関係人口」をコミュニティのメンバーに！ 60%

アンケート結果については、「あなたの親しい人と健康状態に関する調査」の分析結果と合わせ、今後公表してまいります。

一方、「寄合や会議のオンライン化（インターネットを使った会議）」については、およそ50%が「どちらともいえない、あまりそう思わない、全くそう思わない」と答え、時期尚早のようです。

行催事や会議、役職のあり方については、「スリム化を図る一方、時代変化が求める新たな課題には積極的に取り組む」や「『関係人口』（地区外から応援してくれる人）をコミュニティのメンバーに加える」などにおよそ60%の世帯が「とても

このアンケートは、検討中の「提言骨子」と住民の皆さんの意識との間に隔たりがあるかどうかを確認することを主な目的として実施しました。

12月3日（土）に、第4回会議を開催しました。8月に実施した「持続的なコミュニティづくりのためのアンケート」の集計結果を踏まえ、「しきしま未来への構造改革に向けた提言」について検討しました。

## ③ 未来への構造改革プロジェクト

# 中山間直払い広域協定 締結に向け 一歩前進！

## ② 農地保全プロジェクト

10月30日（日）に、プロジェクトメンバーと中山間地域等直接支払制度の協定団体との合同会議を開催し、以下2点を確認しました。

【1】中山間直払い広域協定については、制度活用開始から間もない大坪町の2団体（大坪および高能集落）は、第5期対策（令和2、3、6年度）終了時に検討、未協定集落を含むその他の集落については、要望のある集落での説明会開催を前提に、大筋で広域協定参加の方向性が確認され、大きく前進しました。

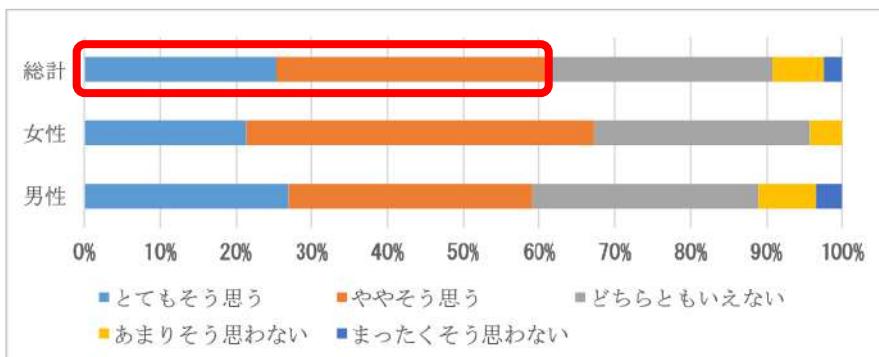
【2】農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業については、敷島自治区が進めるプロジェクト全体にとってメリットの多い助成制度であるため、採択に向けて事務を進めていくことが確認されました。

また、今回の合同会議には、農業委員さんおよび3名の農地利用最適化推進委員さんにもご出席いただきました。

推進委員の鈴木順三さん（大坪町）より、今年5月に「基盤法」（農業経営基盤強化促進法）が改正され、全集落での「人・農地プラン実質化」が義務化され、敷島自治区を単位として「目標地図」（農地1筆ずつの将来方針を色塗りする）を作成する必要があるとの説明がありました。

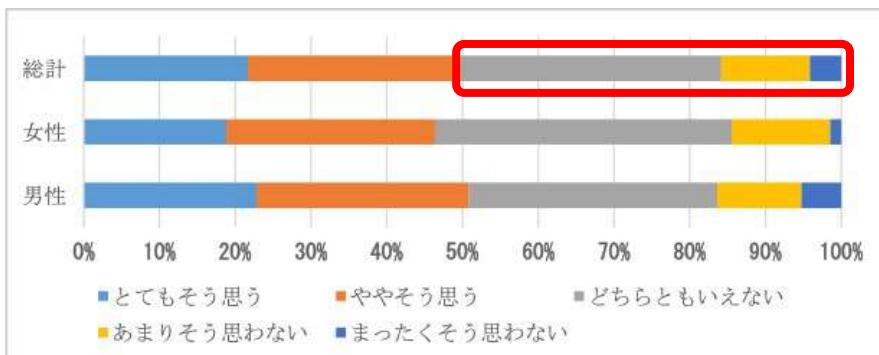
### 質問1

人口減少・高齢化が進む中で、地域住民ではないけれども地域で活躍する人（関係人口）にも将来的には自治区や町内会のメンバーに加わってもらうようにする必要があります。

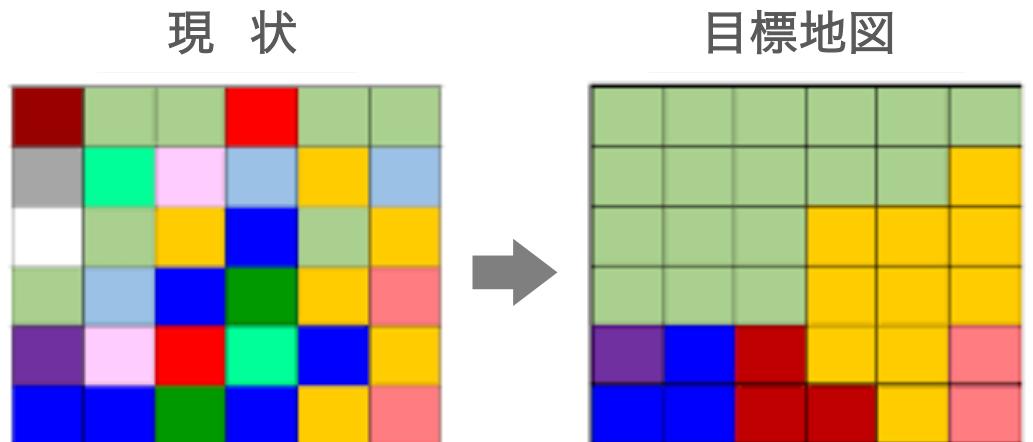


### 質問2

会議や寄り合いは、インターネットを活用したオンライン会議を導入するなどによってコロナ禍でも開催していくことが大事である。



## ※ 目標地図のイメージ



農地保全プロジェクトを推進する絶好の機会と捉え、今後は農業委員さん、推進委員さんとも連携していきたいと思えます。